

科目名	工業技術基礎	単位数	3	履修学年	建築科1年生
使用する教科書・副教材等		建築設計製図(実教出版)			
学 習 目 標					
工業(建築)の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業(建築)の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を育成する。 建築物を表現する建築製図、図学(建築)の基礎を把握し、基礎的な建築図面及び透視図の作成能力を育成する。					
学 習 方 法					
課題製作に取り組む実習形式の授業によって学習を進める。 建築設計製図では製図道具の基本的な使い方や、建築図面におけるルールや表現・技法を習得する。 図学(建築)では、透視図の種類や添景、陰影や着彩などの表現方法を習得する。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	学習や作図・課題演習を通して、建築設計製図に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を理解し、設計図書の意義や役割、作図手順などの知識・技能を身につけている。		建築設計製図における基礎的・基本的な知識を活用して適切に思考・判断し、創意工夫した製図法で的確に表現する力を身につけている。		様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	製図の基本 各種図面の表記事項とかき方 建築造形の基礎と投影法(透視図)	・製図の基本では、製図用具の用途や使用方法を理解し、建築図面での線の種類や図記号の意味、かき順・寸法や縮尺について理解する。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。	
2	9～11	建築の設計製図(木構造の設計)	・透視図では、種類と構図の捉え方、添景の着彩や陰影の表現技法を学び、立体感のある表現技能を習得する。	・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	1～2	1. 設計の進め方 2. 木構造設計の基礎知識	・建築の設計製図では、設計演習により建築設計の進め方、図面のもつ役割や種類を理解する。また木構造について「建築構造」の授業内容と関連した学習を行い、相互理解を深める。	・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・筆記用具、製図道具、教科書、配布資料をまとめたファイルなど、忘れ物をしないこと。 ・実習系科目の課題は、作図・制作に時間を要するため早めに取り組み提出期日をよく確認しておくこと。またメモをこまめに取り、記録・復習ができる習慣を心がけること。 ・授業の板書や配布資料を工夫して見やすい(復習しやすい)ファイル作りを行うこと。					

科目名	工業情報数理	単位数	2	履修学年	建築科1年生
使用する教科書・副教材等		精選工業情報数理(実教出版)、3・4級計算技術検定問題集(全工協)			
学 習 目 標					
情報の意義や役割を理解し、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用して、協働で問題を解決する能力を身につける。 関数電卓や文書作成及び表計算ソフトの基礎的な技術を習得を身につけ、計算技術検定3級とパソコン利用検定3級の取得を目指す。					
学 習 方 法					
テキストを用いた講義形式の授業ならびに小テストにより知識の定着を図る。 コンピュータを用いて実際の操作を理解し、各ソフトウェアの活用技術を身につけるとともに、課題に対するグループワークやプレゼンテーションを行う。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	関数電卓やコンピュータに関する基礎的な知識や操作技術について十分な知識を習得し、理解を深め、活用する能力を身につけている。	情報や数値処理について自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、作品の制作などの表現の能力を身につけている。	様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 4割 ・小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)	主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～7	関数電卓の基本操作	・関数電卓の基本的な操作方法を学び、計算技術検定3級の取得を目指す	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題	
2	9～12	Microsoft Wordでの文書作成	・コンピュータの機器やソフトウェア、ネットワークについて基本的な内容を理解し、適切に活用できるようにする	・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	1～2	Microsoft Excelでの表計算	・ソフトウェアでの文書作成技術を学び、パソコン利用検定3級の取得を目指す ・表計算ソフトを活用し、効率よく計算する技術を習得する ・CADソフトによる製図ができるようにする	・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・1学期は計算技術検定3・4級の演習問題集が必要です。筆記用具も含めて忘れないように。 ・データでの課題提出を求めます。提出場所を授業内で指示しますので間違えないように。 ・各課題の提出期限は厳守です。					

科目名	建築構造	単位数	2	履修学年	建築科1年生
使用する教科書・副教材等		建築構造(実教出版)			
学 習 目 標					
各種の建築物の構造形式や構成材料の概略を理解する。 木構造・鉄筋コンクリート構造を構成する部材名称や部材の働き、構成方法と材料の名称や特性を理解させ、実際に活用する能力と態度を育てる。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワークやプレゼンテーション学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築構造に関する各種の構造、材料、働きなどに関する基礎的な知識と技術を身につけ、快適で安全な建築技術の意義や役割を理解している。	建築構造について自ら思考を深め、問題の発見やその解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、課題の制作などの表現の能力を身につけている。	様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)	主体的に取り組む態度 2割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～7	第1章 建築構造のあらまし	・建築構造のあらまし ・木構造の一般的な特徴の把握 ・構造形式の種類と特徴の概要を理解 ・鉄筋コンクリート構造の特徴の把握 ・技術の進展に対応した構法や施工技術習得 ・構造や構成材料などの理解	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
2	9～12	第2章 木構造			
3	1～2	第3章 鉄筋コンクリート構造			
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
木構造・鉄筋コンクリート構造の一般的な特徴を把握させるために、日常生活と関連させる指導を行う。 構造や構成材料などの理解に意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけようとする意欲が大切である。					

科目名	実習	単位数	2	履修学年	建築科1年生
使用する教科書・副教材等		基礎製図検定問題集			
学 習 目 標					
建築に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 建築の技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき建築技術の進展に対応し解決する力を養う。 建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。					
学 習 方 法					
空間やその表現法を理解すべく、基礎製図検定問題集に取り組み、基礎製図検定の取得を目指す。 コンピュータを活用した製図として、Jw-cadを用いた2次元CADソフトにより、建築図面を作成する技能を身につける。 建築模型制作に適した道具や模型材料を用い、課題と体験を通した学習を行う。					
学習評価の観点別標準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	各単元における基礎的な知識と技術を身に付け、建築技術者に必要とされる立体的な物の捉え方、作図内容や制作手順、道具や関数電卓の使い方などの知識と技術を身につけている。		各単元における知識や技術について自ら思考を深め、問題の発見や問題解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、作品の制作などの表現の能力を身につけている。		様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1 2	4～6 9～11	実習安全 コンピュータ実習 1 cadの操作方法 製図・造形実習 1 模型道具と材料の使い方 コンピュータ実習 2 3D表現 製図・造形実習 2 建築模型制作	・実習安全では、事故防止や安全に作業を行うため、決められている規則やルールを正しく理解する。 ・コンピュータ実習では、建築実務で活用されるJw-cadの基本操作、コンピュータ上の製図の表現・技能、活用方法の基礎を習得する。 ・製図・造形実習では、物体を平面状に捉える力を育成し、建築製図や透視図で作図表現する基礎的な技術・技能を習得する。建築模型の表現や制作方法、道具や材料の基礎的な知識・技能を習得する。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・筆記用具、実習に用いる道具など、忘れ物をしないこと。 ・実習系科目の課題は、作図・制作に時間を要するため、早めに取り組み、提出期日をよく確認しておくこと。 ・メモをこまめに取り、記録・復習ができる習慣を心がけること。 ・授業の板書や配布資料を工夫して見やすい（復習しやすい）ファイル作りを行うこと。					

科目名	実習	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		なし			
学 習 目 標					
測量器の扱い方、足場の組立て・解体、鋼構造の建方、木材の加工方法を身に付け、安全に作業を進める方法や報告書の作成方法を理解し、実践的な技術を習得する。					
学 習 方 法					
複数名での班別実習により、機器の操作や各組立・解体作業に取り組む。 レポートにより、実習内容を復習し、知識や技能の定着を図る。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	測量や足場・鋼構造組立、木材加工を通じて得た基礎的な知識や技術を知識として身に付け、活用することができる。	建築現場における、測量や足場・鋼構造組立、木材加工の諸問題を発見し、解決を目指して思考を深めて適切に判断し、創意工夫する能力を身につける。	建設現場に必要な知識と技術に関心をもち、その習得に意欲的に取り組み、活用しようとする実践的な態度を身につける。		
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）	主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～5 6～7	水準測量、測角測量 木材加工	・測量器の使用方法を理解する ・測量から得られた結果を計算し、測量に対する理解を深める。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。	
2	9～10	足場組立	・足場の組立を通じて高所作業を安全に実施する方法を身につける。	・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	11～12 1～2	鋼構造組立	・鋼構造の組立を通じて建築物がどのように作られているのかを理解し、鋼構造に対する基本的知識を身につける。	・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・実習安全に注意し、担当の指示をしっかりと聞くこと。 ・配布資料を整理するため、A4のフラットファイル（紙ファイル）を必ず持参し、綴じていくこと。 ・グループワークでは積極的に意見交換し、意見の集約を図ること。 ・レポート、報告書、成果物の完成度を向上させることを心掛けること。					

科目名	製図	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築設計製図(実教出版)			
学 習 目 標					
建築分野における製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関係する技術を身に付ける。建築設計製図の基本を学び、設計製図法に至るまで段階を迫って学習する。建築に関する基礎知識を、総合的にまとめる能力を身につける。					
学 習 方 法					
課題製作に取り組む実習形式の授業によって学習を進める。 建築設計製図では製図道具の基本的な使い方や、建築図面におけるルールや表現・技法を習得する。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	2階建住宅・鉄筋コンクリート構造の設計条件や要点を理解し、基礎や骨組の形式階段寸法の検討など住宅設計の知識と建築基準法の基本事項を意欲的に取組む知識・技術を身につけている。	2階建住宅・鉄筋コンクリート構造の設計条件や要点を思考・判断し、基礎や骨組の形式階段寸法の検討など住宅設計の理解と建築基準法の基本事項を意欲的に取組む行動力を身につけている。	2階建住宅・鉄筋コンクリート構造の設計条件や要点に興味・関心をもち、基礎や骨組の形式階段寸法の検討など住宅設計の理解と建築基準法の基本事項を意欲的に取組む行動力を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)	主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1 2 3	4～7 9～12 1～2	第3章 木構造の設計製図 ・木造2階建専用住宅設計製図 ・製図例5 第4章 鉄筋コンクリート構造の設計製図 ・店舗付事務所設計製図 ・製図例6	・木造2階建専用住宅の基礎や骨組の形式、建築物の配置、通柱の位置、階段寸法などを理解して作図する。 鉄筋コンクリート造の店舗付事務所の基礎や骨組の形式、建築物の配置、通柱の位置、階段寸法、上下階の位置関係などを理解して作図する。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・製図道具、教科書、配布資料をまとめたファイル等の忘れ物をしないこと。 ・自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題製作を進める。 ・長期的で広角的な視野を持って、計画的な学習活動を行う。					

科目名	建築構造	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築構造(実教出版)			
学 習 目 標					
建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技能の習得をもとに、建築物の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断し創意工夫する能力を身に付けるとともに、合理的にかつ的確に遂行する技術や技能を身に付け環境への配慮を心掛け活用し、その成果を適切に表現する。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 ICTを活用し、タブレットでの、プリントやワークシートを用いて学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワーク学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築構造に関する各種の構造、材料、働きなどに関する基礎的な知識と技術を身につけ、快適で安全な建築技術の意義や役割を理解している。	建築構造について自ら思考を深め、問題の発見やその解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、課題の制作などの表現の能力を身につけている。	様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)	主体的に取り組む態度 2割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～7	第3章 鉄筋コンクリート構造 ・構造の特徴と構造形式 ・鉄筋 コンクリート	・鉄筋コンクリート構造の特徴の把握 ・技術の進展に対応した工法や施工技術習得	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題	
2	9～12	・基礎 躯体 ・その他のRC造	・構造や構成材料などの理解 ・躯体に関する、役割と特徴・工法の理解	・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	1～3	第4章 鋼構造 ・構造の特徴と構造形式 ・鋼材の接合・基礎と柱脚 ・骨組	・鋼構造の特徴の把握 ・ラーメン構造とブレース構造の構成部材 ・接合の種類、方法、応力伝達の方法、 接合要素の規格を		
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造の一般的な特徴を把握させるために、日常生活と関連させる指導を行う。 ・構造や構成材料などの理解に意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけようとする意欲が大切である。					

科目名	建築計画	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築計画(実教出版)			
学 習 目 標					
・建築計画とは、強・用・美を備えた建築物を企画・計画することであり、建築主の意図や要求を受けて、専門的な立場からそれを分析・整理するとともに、目的とする建築物を具体的に立案するために必要な調査・検討を行い、構想を練ることをいう。 ・建築と環境、住宅の計画、各種建築物の計画、都市と地域の計画、建築設備の計画、建築の移り変わりなどに関する基本的な知識と技術を身につけさせる。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワーク学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	建築と環境、住宅の計画、各種建築物の計画、都市と地域の計画、建築設備の計画、建築の移り変わりなどに関する基本的な知識と技術を習得し、建築物を合理的かつ創造的に計画する力を身につけている。		建築物の計画に関する課題を見だし、各分野の知識・技術を活用して、科学的な根拠に基づき思考・判断し、その解決策を的確に表現する能力を身につけている。		建築計画の各分野に興味・関心をもち、環境に配慮した安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して、主体的に学習に取り組んでいる。
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）		主体的に取り組む態度 2割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい		評価のポイント 課題・提出物等
1	4～6	住宅の計画 全体計画	・建築計画の意義や過程をはじめ、地球環境への配慮やユニバーサル社会の実現などの課題について、図やイラストなどを用いてわかりやすく説明し、建築計画に対する興味・関心を高めるようにする。 ・独立住宅の敷地計画、配置計画、平面計画、立面・断面計画などの留意事項を示し、設計への具体化について理解させる。 ・日本と西洋の古代から現代までの建築の移り変わりや各時代の歴史的出来事との関連を年表やイラストを用いて説明し、建築の歴史に対する興味・関心を高めるようにする。		・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する
2	9～11	各種建築物の計画 〃			
3	1～2	都市と地域の計画 建築の移り変わり			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・筆記用具、教科書、配布資料をまとめたファイル等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書や配布資料を工夫して見やすい（復習しやすい）資料作りを行うこと。 ・2年次建築計画では、建築計画の各論を学習する。また、建築士試験における環境・設備の領域は、3年次建築計画で学習する。					

科目名	建築構造設計	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築構造設計(実教出版)			
学 習 目 標					
構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力と態度を育てる。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。					
プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワーク学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築物に作用する力に関する基本的な特徴および力学上の取扱いを理解し、反力を求め、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の求め方および表し方を習得させる。	建築物に働く荷重および外力を理解し、支点に生じる反力を求め、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の実践的な計算方法と表し方に関する課題と解決策を考える。	構造物に作用する荷重や外力に関心を持ち、建築物を支える支点の反力と軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図について意欲的に取り組もうとしている。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)	主体的に取り組む態度 2割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～7	第1章 構造物に働く力	・様々な力と力の合成・分解を理解させる。 ・単純梁の反力計算と軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図を理解させる。	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題する。	
2	9～12	第2章 静定構造物の部材に生じる力	・静定ラーメンの反力計算と軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図を理解させる。	・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する。	
3	1～2		・静定トラスの各部材応力を算式解法で解けるようにする。		
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・筆記用具、教科書、計算機、ファイル等の忘れ物をしないこと。 ・授業の板書や配布資料を工夫して見やすい(復習しやすい)資料作りを行うこと。 ・2年次では、静定構造物の計算を学習する。3年次では部材の性質と応力について学習し、2級建築士受験対策を行う。					

科目名	実習（選択Ⅰ）	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築設計製図(実教出版)			
学 習 目 標					
建築構造の授業で学習した内容をふまえ、Jw-CADを用いた木構造図の表現方法を習得する。					
学 習 方 法					
座学とPCを用いた実技を交互に行う。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
評価規準	「建築計画」「建築構造」で学習した内容をふまえ、製図規約に基づき、正しい図面の表現ができています。 各部材の名称・役割を理解したうえで、図面内容を正確に表現できています。	軸組の内容を的確に把握し、作業の手順通りの流れで作図することができる。		建築物の形態や構造に興味をもたせ、それを設計図として表現する方法を習得する。	
評価方法	出席状況・授業への取り組み・プリントへの記述（4割）	模擬試験、授業への取り組み（3割）		授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等（3割）	
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	・木造平家住宅の設計 JW-CADの活用	・木構造の製図に関する1年次の学習を基礎として、設計のしかたや考え方を実践する設計製図を行う。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する	
2	9～11	・図面から建築積算の基礎	・コンピュータを活用した製図及びプレゼンテーションに関する知識や技術を身に付ける。	・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	1～2	Excelの活用 ・詳細図（ディテール）の作図	・建築積算に関するExcelを活用した表計算の知識や技術を身に付ける。	・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・模写（トレース）と違い、諸条件を整理し、自らまとめあげる必要があります。自分で手を動かし、考え、何度もスケッチを繰り返すなど自分から学ぶ姿勢が必要です。 ・担当教員との連携が大切です。常に相談をしながら作品をまとめ上げるだけのコミュニケーションを要求します。					

科目名	建築施工（選択Ⅱ）	単位数	2	履修学年	建築科2年生
使用する教科書・副教材等		建築施工（実教出版）			
学 習 目 標					
主要3構造の施工方法について基本的な知識を習得する。 施工管理法・建設業法・積算など施工に関わる様々な要素を体系的に学習し、建築施工の一連の流れを理解する。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワーク学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築施工に関する各種施工方法、材料、施工管理法、関連法規などに関する基礎的な知識と技術を身につけ、快適で安全な建築技術の意義や役割を理解している。	建築施工について自ら思考を深め、問題の発見やその解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、課題の制作などの表現の能力を身につけている。	様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）	主体的に取り組む態度 2割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	第1章 建築施工のあらまし	・建築生産の中における最終過程である建築施工のもつ意義およびその領域を理解する。 ・土工事の種類と各種山留め工法の特徴および排水工法について学習する。 ・鉄筋コンクリート構造の躯体工事について、標準的な鉄筋コンクリートラーメン構造の建築物を想定して、一般的に行われている工法を理解する。	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
2	9～11	第2章 工事の準備			
3	1～2	第3章 地面から下の工事			
		第5章 鉄筋コンクリート構造の工事			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・教科書、問題集は必ず持参すること。 ・プリント学習が中心となるので、A4のフラットファイル（紙ファイル）を必ず持参し、綴じていくこと。 ・グループワークでは積極的に意見交換し、意見の集約を図ること。					

科目名	課題研究	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		(建築コース) 初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計(学芸出版社) (インテリアコース)初めてのインテリアコーディネーション(学芸出版社)			
学 習 目 標					
建築分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習活動を通して、問題解決策を探索し、科学的根拠に基づき創造的に解決する力を身に付ける。自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的にかつ協動的に取り組む態度を身に付ける。					
学 習 方 法					
実習(建築コース・インテリアコース)との連続性を持たせ、テーマ毎に担当者を設け班編成し、その班編成によって授業展開を行う。各班毎に通年を通してテーマに関する課題の制作を行い提出する。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	各テーマ(用途)に基づいて決定した建築物に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、自ら設計する中で法令に基づいた諸室の意義や役割、設計図書の仕事手順などの知識・技能を身につけている。		各テーマ(用途)に基づいて決定した建築物に関して適切に思考・判断し、創意工夫した計画をおこなない、法令に基づいた建築物を的確に設計図面で表現する力を身につけている。		様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かった意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク(班別学習)の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	テーマの決定 計画の立案 エスキスの作成	集合住宅・高齢者福祉施設や学校教育施設、事務所・コミュニティ施設(主に商業系)及び文化施設(博物館・美術館・地域図書館)などの設計分野や建築設計競技、インテリア分野の中から各テーマを選択し、テーマに沿った卒業制作活動を行う。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
2	9～11	図面の作成			
3	1～2	報告書の作成			
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題制作を進める。 ・配布資料を整理するため、A4のフラットファイル(紙ファイル)を必ず持参し、綴じていくこと。 ・長期的で広角的な視野を持って、計画的な学習活動を行う。 ・実習(建築コース・インテリアコース)との連続性に留意する。					

科目名	実習（建築コース）	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計（学芸出版社）			
学 習 目 標					
建築分野に関する技術・技能を実際の作業に即した実践的・体験的な学習活動を通して総合的に習得する。またそれらを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。					
学 習 方 法					
課題研究との連続性を持たせ、テーマ毎に担当者を設け班編成し、その班編成によって授業展開を行う。各班毎に通年を通してテーマに関する課題の製作を行い提出する。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	各テーマに基づいて決定した製作課題に関する基礎的な知識と技術を身に付け、方法の意義や役割を理解する力を身に付けている。		各テーマに基づいて決定した製作課題に関する基礎的な知識と技術をもとに、その内容について思考し、活用する際に適切な判断ができる能力を身に付けている。		各テーマに基づいて決定した製作課題に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その内容の把握に意欲的に取り組み活用しようとする態度を身に付けている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい		評価のポイント 課題・提出物等
1	4～6	実測（野帳）実習 足場実習	・実測により寸法を体験的に理解する。 ・足場の建て方・解体を理解する。		・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない
2	9～11	図面表現実習（透視図の技法と着彩・プレゼンテーション図面の作図）	・Vectorworks(BIM), Photoshop, Illustratorにより透視図の技法と着彩、プレゼンテーション図面表現を理解する。		
3	1～2	模型制作 報告書の作成	・課題研究との連続性を考慮した模型制作に取組み、作図した建築物の立体的な表現を理解する。		
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題製作を進める。 ・長期的で広角的な視野を持って、計画的な学習活動を行う。 ・課題研究との連続性に留意する。 ・グループワークでは積極的に意見交換し、意見の集約を図ること。 ・レポート、報告書、成果物の完成度を向上させることを心掛けること。					

科目名	実習（インテリアコース）	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		（インテリアコース）初めてのインテリアコーディネーション（学芸出版社）			
学 習 目 標					
インテリアに関する技術・技能を実際の作業に即した実践的・体験的な学習活動を通して総合的に習得する。またそれらを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。					
学 習 方 法					
講義（課題説明）の後、実技（課題製作）を行う。課題製作時の指導については、少人数のため、マンツーマンに近い形式での個別指導を基本とする。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	インテリアに関する基礎的な知識と技術を身に付け、方法の意義や役割を理解する力を身に付けている。		インテリアに関する基礎的な知識と技術のもとに、その内容について思考し、活用する際に適切な判断ができる能力を身に付けている。		インテリアに関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その内容の把握に意欲的に取り組み活用しようとする態度を身に付けている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい		評価のポイント 課題・提出物等
1	4～6	建築の伝統・文化の考察 室空間の関連事項と寸法 室内の製図 展開図・アイソメ図	・建築の伝統や文化の流れを理解する。 ・構造物や家具の形を理解する。 ・人体寸法と室空間の寸法を理解する。 ・室内空間の表現方法を知る。 ・建築条件を守って計画し、図面化する。		・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない
2	9～11	住宅の設計 エスキス・作図			
3	1～2	製本・発表			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題製作を進める。 ・課題研究におけるインテリアの学びとの関連を意識して学習を行う。 ・グループワークでは積極的に意見交換し、意見の集約を図ること。 ・レポート、報告書、成果物の完成度を向上させることを心掛けること。					

科目名	製図	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業705 建築設計製図			
学 習 目 標					
・ 建築設計製図の基本を学び、設計製図法に至るまで段階を迫って学習する。 ・ 建築に関する基礎知識を、総合的にまとめる能力を身につけるように学習する。					
学 習 方 法					
各課題とも冒頭に一括して課題説明を行う。主体的な学習活動によって担当教員の指導を受け課題作成を進め提出を行う。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	・ 木造住宅の設計製図の具体的な流れの理解に意欲的に取り組む知識・技能を身につけている。 ・ 鋼構造の作図方法を理解し、実践的な知識・技能を身につけている。	・ 基礎や骨組の形式、仕上方法などを常に思考・判断し、住宅設計の知識の理解に意欲的に取り組むとともに、実践的な行動力を身につけている。 ・ 鋼構造の作図を常に思考・判断し、鋼構造の理解に意欲的に取り組み、実践的な行動力を身につけている。	・ 基礎や骨組の形式などに興味・関心をもち、住宅設計の知識の理解に意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。		
評価方法	・ 知識・技能 4割 ・ 課題の提出及び内容	・ 思考・判断・表現 3割 ・ 課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）	主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	第4章 木構造の設計製図 製図例 2 平屋階建専用住宅	・ 木構造の各伏図や、軸組図などの構造材や補助構造材について、理解する。 ・ 鋼構造の組立・接合の方法と表現について学ばせる。	・ 課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・ 授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
2	9～11	第5章 鋼構造の設計製図 製図例 10 店舗付事務所設計図	・ 図面は、主要構造材（柱・梁等）・補助構成材（母屋・胴縁等）・仕上材の順に仕上げていくことを習得させる。	・ なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
3	1～2	製図例 10-1～ 10-4 製図例 9 工場設計図			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・ 製図道具、教科書、配布資料をまとめたファイル等の忘れ物をしないこと。 ・ 自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題製作を進める。 ・ 長期的で広角的な視野を持って、計画的な学習活動を行う。					

科目名	建築計画	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業 7 4 9 建築計画			
学 習 目 標					
建築計画に関する知識と技術を習得させ、建築物を安全で合理的に計画する能力と態度を育てる。「建築と環境」「建築の設備」に関する学びを重点とし、快適な住環境を計画する上で基本的な要因とその重要性について学ぶ。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図る。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築計画にかかわる基礎的・基本的な知識・技術や実験・実習を通して、設計者としての望ましい心構えや態度を身につけるとともに、建築計画の意義や役割を理解している。	建築計画にかかわる問題点や課題を建築の各分野の基礎的・基本的な知識・技術を活用して思考・判断し、その解決策を的確に表現できる能力を身につけている。	建築計画に興味・関心をもち、その目的や意義をはじめ、建築物のつくり出される過程とのかかわりなどを理解するため、真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表	主体的に取り組む態度 2割 授業態度		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1 2	4～6 9～11	建築と環境 建築設備の計画 1給排水・衛生設備 2空気調和・換気設備 3電気設備	・建築物を取りまく環境の要素について学び、その基本的な事項、及び計画上の規準について理解する。 ・建築設備の目的や内容、設備計画を行うにあたっての基本的な事項を学び、これらの計画の方法について理解する。	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
3	1～2	建築設備の計画 4防災設備 5搬送設備			
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・筆記用具、教科書、ノート等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書を工夫して見やすい(復習しやすい)ノート作りを行う。 ・建築計画と関係する科目: 建築法規、建築構造、建築構造設計、建築施工、建築製図、実習、課題研究					

科目名	建築施工	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業375 建築施工			
学 習 目 標					
主要3構造の施工方法について基本的な知識を習得する。 施工管理法・建設業法・積算など施工に関わる様々な要素を体系的に学習し、2年次の施工と合わせて建築施工の一連の流れを理解する。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図る。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	建築工事に関する各種の工法など建築施工に関する基礎的な知識と技術に加え、2級建築施工管理技士の取得に向けた知識を身につける。		建築施工に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察し、実験・実習において、実務的な技能を活用し、表現することができる。		建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につける。
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表		- 主体的に取り組む態度 2割 - 授業態度
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい		評価のポイント 課題・提出物等
1	4～5 6～7 9～10	鋼構造の工事 その他の構造の工事 仕上げ工事	・主要3構造について施工の流れと要点を理解する ・工事の契約や施工計画の立て方、施工管理の要点を理解し、工事の流れを把握する ・工事費の算出方法を学び、具体的な構造物から工事費算出に必要な数量の拾い出しができるようにする。		・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する
2	11～12	建築物の維持保全			
3	1～2	建築工事費の算出			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・筆記用具、教科書、ノート等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書を工夫して見やすい（復習しやすい）ノート作りを行う。 ・建築施工と関係する科目：建築法規、建築計画、建築構造、建築構造設計、建築製図、実習、課題研究					

科目名	建築法規	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業 7 6 9 建築法規・建築関係法令集（総合資格学院編）			
学 習 目 標					
1. 建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解するようにする。 2. 法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力を養う。 3. 安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 教科書・建築関係法令集を中心とした講義形式の授業によって学習を進める。また、授業の板書ノートを活用して復習することで学習の定着を図る。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築法規を包括的に学習し、建築生産に役立つ実践的な知識を身につけ、建築法規に関する知識を建築物の設計や施工にかかわる業務に活用できる。	建築法規の役割について思考を深め、種々の事例に対して知識・技能を生かして適切に判断し、建築の計画・設計・施工などの学習において的確に表現できる。	建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建築法規の必要性や諸問題などについて幅広く関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表	主体的に取り組む態度 2割 授業態度		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	建築法規のあらまし 個々の建築物にかかわる規定	・法令や建築基準法の基本的な用語とともに、法規上定められる面積・高さ・階数などの算定の基準と方法を具体的な事例を通して理解する。	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
2	9～11	良好な都市環境をつくるための規定	・構造、防火、避難、密度等の規定について、建築計画や設計に必要な基本的な事柄について、相互の関連とともに理解する。		
3	1～2	各種の関係法令 手続きなどの規定			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・筆記用具、教科書、ノート等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書を工夫して見やすい（復習しやすい）ノート作りを行う。 ・建築法規と関係する科目：建築計画、建築構造、建築構造設計、建築施工、建築製図、実習、課題研究					

科目名	建築構造設計 (選択Ⅲ)	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業 7 4 8 建築構造設計			
学 習 目 標					
構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力と態度を育てる。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 プリントやワークシートを用いた記述ならびに小テストにより学習内容の定着を図る。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。		安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表		主体的に取り組む態度 2割 授業態度
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい		評価のポイント 課題・提出物等
1	4～7	第2章 4節 静定トラス	・節点法と切断法について理解させ、各部材の応力が求められるようにする。 ・曲げ材、引長材および圧縮材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その安全性について検討できるようにする。		・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク(班別学習)を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する
2	9～12	第3章 1節 断面の性質 2節 構造材料の力学的性質	・座屈の現象に関して理解を深め、座屈に関わる基本的事項を確認させる。 ・節末問題で計算力や応用力を高めさせる。		
3	1～2	3節 部材に生じる応力度			
学習サポート(担当者からのアドバイス)					
・筆記用具、教科書、ノート等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書を工夫して見やすい(復習しやすい)ノート作りを行う。 ・建築構造設計と関係する科目: 建築法規、建築構造、建築計画、建築施工、建築製図、実習、課題研究					

科目名	建築構造（選択IV）	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業 714 建築構造			
学 習 目 標					
1. 鋼構造を構成する部材名称や部材の働き、構成方法を理解させ、材料の名称や特性を理解させる。 2. 合成構造を構成する部材の働き、構成方法及び材料の特性の概要を理解させる。					
学 習 方 法					
教科書を中心に講義形式での授業を行う。 ICTを活用し、タブレットでの、プリントやワークシートを用いて学習内容の定着を図るとともに、課題に対するグループワーク学習を展開していく。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
評価規準	建築構造に関する各種の構造、材料、働きなどに関する基礎的な知識と技術を身につけ、快適で安全な建築技術の意義や役割を理解している。	建築構造について自ら思考を深め、問題の発見やその解決方法を適切に判断し、グループでの話し合いや発表、課題の制作などの表現の能力を身につけている。	様々な学習活動を通して、他者との協働により、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。		
評価方法	・知識・技能 5割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容	・思考・判断・表現 3割 ・定期考査、小テスト、課題の提出及び内容、発表	主体的に取り組む態度 2割 授業態度		
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～7	第4章 鋼構造 ・基礎と柱脚 ・骨組 ・柱・梁・床 ・階段 ・耐火被覆 ・仕上げ	・ラーメン構造とブレース構造の構成部材・接合の種類、方法、応力伝達の方法、接合要素の規格を理解 ・柱・梁の形状及び配置 ・耐火被覆の種類と役割 ・屋根・外壁仕上げ ・構造の特徴	・定期考査では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を出題 ・授業態度、小テストへの取り組み、課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する	
2	9～12				
3	1～3	第5章 合成構造 ・鉄骨鉄筋構造			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・筆記用具、教科書、ノート等、忘れ物をしないこと。 ・授業の板書を工夫して見やすい（復習しやすい）ノート作りを行う。 ・建築構造と関係する科目：建築法規、建築計画、建築構造設計、建築施工、建築製図、実習、課題研究					

科目名	実習（選択Ⅴ）	単位数	2	履修学年	建築科3年生
使用する教科書・副教材等		7 実教 工業705 建築設計製図			
学 習 目 標					
木造在来軸組2階建専用住宅に関する知識を習得させ、平面プラン、各伏せ図、軸組図を安全で合理的に計画し、作図する能力と態度を育てる。					
学 習 方 法					
設計条件に従い、各自がプランニングした平面図に基づいて、教科書を参考に各図面の作図を行う。					
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価規準	・木造在来軸組2階建専用住宅の工法について、設計条件や要点を理解し、各伏図や軸組図の形式、階段寸法の検討など住宅設計の知識と建築基準法の基本事項を意欲的に取組む知識・技術を身につけている。 ・各図面をまとめて、総合的にまとめる知識を身につけている。		・設計条件や要点を理解し、各伏図や軸組図の形式、階段寸法の検討など住宅設計の知識と建築基準法の基本事項関連づけ、判断して図面上に表現できる。 ・各図面をまとめて、総合的にまとめる表現力を身につける。		・設計条件や要点を理解し、各伏図や軸組図の形式、階段寸法の検討など住宅設計の知識と建築基準法の基本事項に主体的に取組んでいる。 ・各図面を意欲的にまとめている。
評価方法	・知識・技能 4割 ・課題の提出及び内容		・思考・判断・表現 3割 ・課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）		主体的に取り組む態度 3割 授業態度やグループワーク（班別学習）の参加態度等
学習内容、学習活動、ねらい及び評価のポイント					
学期	月	学習内容(単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント 課題・提出物等	
1	4～6	プランニング 配置図兼1階平面図・2階平面図、立・断面図の作図	・木造在来軸組2階建専用住宅の工法について学び、その基本的な事項、及び作図上のポイントについて理解する。 ・建築設備の目的や内容、設備計画を行うにあたっての基本的な事項を学び、これらの計画の方法について理解する。	・課題の内容及び提出により「知識・技能」と「思考・判断・表現」分野を評価する。 ・授業態度や課題の提出及び内容、発表、グループワーク（班別学習）を通じて、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」を評価する ・なお未提出課題がある場合は単位を認定しない	
2	9～11	各伏せ図・軸組図、矩計図の作図	・各図面をまとめて、それぞれの関連性、見栄え等、総合的にまとめる能力を身につける。		
3	1～2	各図面のまとめ(清書)			
学習サポート（担当者からのアドバイス）					
・製図道具、教科書、配布資料をまとめたファイル等の忘れ物をしないこと。 ・自主的で自発的な学習活動により、教科担当者と密なコミュニケーションを図りながら課題製作を進める。 ・長期的で広角的な視野を持って、計画的な学習活動を行う。					